

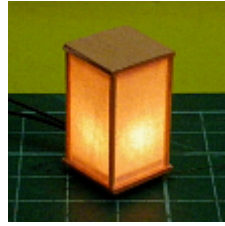
【土間置行灯の作り方】



↑ (Aタイプの作例)

【使用する型紙#】

- 火袋 A (左写真)
- プラ板用 (⑦-1)
- 極薄ベニヤ用 (⑦-4、6)
- パルサ板用 (⑦-3、5)
- 火袋 B (右写真)
- プラ板用 (⑦-2)
- 極薄ベニヤ用 (⑦-6)
- パルサ板用 (⑦-5)



↑ (Bタイプの作例)

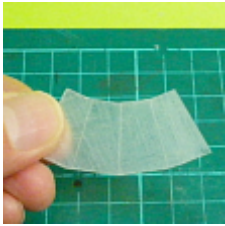
《使用する材料》

(☆はパーツキットに入っているもの、★は自分で用意するもの)

- ☆12V 用麦球
- ☆極薄ベニヤ
- ☆パルサ板
- ☆プラ板
- ☆和紙
- ☆ヒノキ棒 (1 ミリ角)
- ☆しんちゅう線
- ★ボンド
- ★塗料

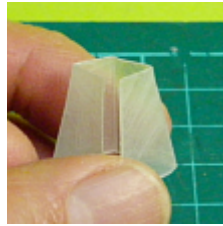
■Aタイプの作り方(1)~(19)

(1) プラ板加工



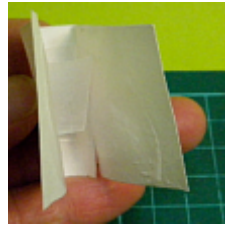
プラ板を型紙通りにカットします (基本技法■1参照)。

(2)



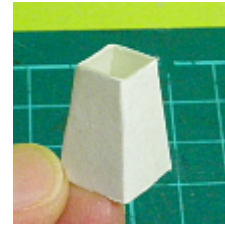
中間線 (スジ) に合わせて折り曲げます。端同士を接着する必要はありません。

(3)



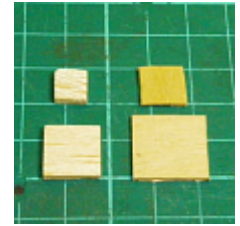
プラ板外面にボンドを塗り和紙を貼ります。プラ板の継ぎ目を巻くようにして下さい。

(4)



ボンドが乾いたらのみ出した和紙を切り取ります。

(5) 板の加工



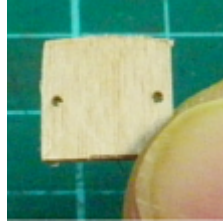
型紙⑦-2~⑤ を使ってパルサ板と極薄ベニヤをカットします。(基本技法■2参照)

(6)



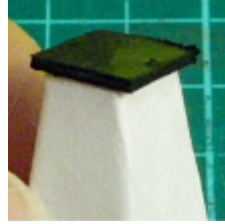
パルサ板(小)を火袋にはめてみて大きさを調整し、火袋最上部に接着します。

(7)



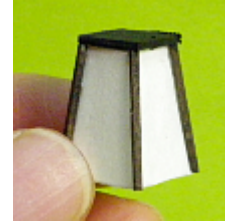
極薄ベニヤ(小)に持ち手取り付け用の孔 (1 ミリ径) を開けます。

(8)



極薄ベニヤを黒く着色し、火袋上部に接着します。

(9)



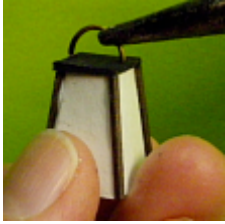
ヒノキ棒 (1 ミリ角) を黒く着色し、火袋の四隅に貼って隅柱とします。

(10)



しんちゅう線で持ち手を作ります。(基本技法■9参照)

(11)



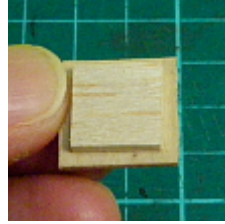
持ち手の先端にボンドを塗って天板の孔に差し込み、黒く塗ります。

(12)



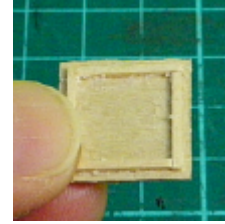
火袋の一面の下部にコードを通すための切込みを入れます。これで火袋は完成です。

(13) 行灯台の製作



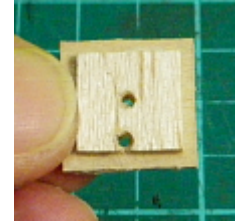
極薄ベニヤ(大)にパルサ板(大)を接着します。これが行灯台になります。

(14)



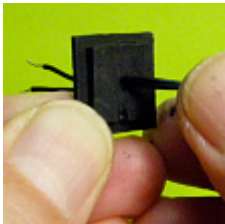
裏面には、端から1ミリ内側にヒノキ棒を枠型に貼ります。行灯台の脚となります。

(15)



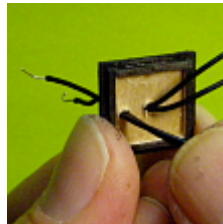
コードを通すための孔 (2 ミリ径) を開けます。孔の位置は型紙⑦-4を参照して下さい。

(16)



台を黒く着色し、麦球のコードを中央の孔に(パルサ板の方から)通します。

(17)



コードを全部いったん下に出したあと、折り返して側方の孔から上部に戻します。

(18)



コードを最後まで引き出して麦球がたるまないようにします。行灯台の完成です。

(19) Aタイプ完成



台を粘着テープで固定し、火袋をかぶせて完成。12V 電源につないで点灯させます。

(20) Bタイプの作り方(応用)

Bタイプは型紙⑦-2でプラ板を加工します。和紙を貼った後、隅柱(未着色の1ミリ角ヒノキ棒)を四隅に貼ります。行灯台の作り方は(13)~(18)と同じです。(13)と同じものをもう一つ作り、上からかぶせて天板とします。Bタイプは着色せず白木のまま仕上げます。